

**風しん予防！**  
予防接種をご検討ください！

# 感染症 ひとくち情報

## 風しんの流行が続いています



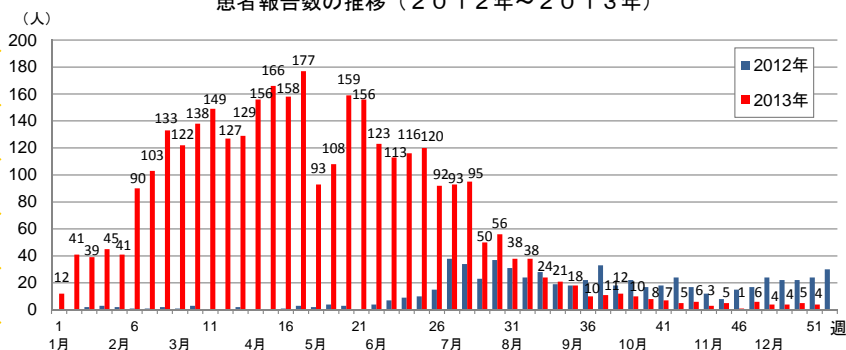
2013年12月27日  
東京都健康安全研究センター

### 1 風しんの発生状況（12月22日まで）

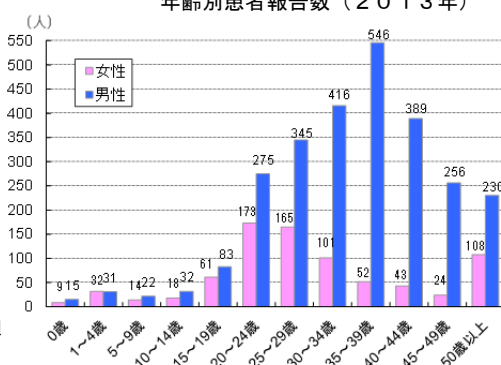
東京都内における風しんの患者報告数は、2008年から2011年までの間は、毎年、15人から46人でしたが、2012年には年間672人と大きく増加しました。

2013年も大きな流行となり、累計は**3,400人**を超えました。ピークの時期からは大きく減少しましたが、依然として患者報告が続いており、今後も十分な注意が必要です。

患者報告数の推移（2012年～2013年）



年齢別患者報告数（2013年）



### 2 風しんとは？

風しんは、発熱、発しん、リンパ節の腫れなどを特徴とする病気で、「三日ばしか」とも呼ばれています。

病原体は風しんウイルスで、主に患者から排泄されるウイルスが口から出るつばなどのしぶき（飛沫といいます）を介して拡がります。

症状は、ウイルスに感染後2～3週間（平均16～18日）たってから、発熱、発しん、リンパ節の腫れが出現します。発熱は患者全体の約半分にみられる程度です。特效薬はなく、症状をおさえるための治療が中心となります。

風しんに対する免疫をもたない女性が、妊娠中（特に妊娠初期）に風しんに初めて感染した場合、胎児が風しんウイルスに感染し、白内障、先天性心疾患、難聴などをもった赤ちゃん（**先天性風しん症候群**）が生まれることがあるため注意が必要です。都内では先天性風しん症候群の報告が**第50週に1人あり**、2013年の患者報告数は**合計13人**となりました。

**予防接種（ワクチン）**が効果的な予防方法です。自分自身はもちろんのこと、家族や周りの人々を風しんから守るためにも予防接種を受けましょう。都内の区市町村では成人を対象に予防接種の補助を行っています（<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/rubella/vaccine/>）。

**\*風しんを疑うような、発熱、発しん、リンパ節の腫れなどの症状がありましたら、無理をせず早めに医療機関を受診してください。**

**\*風しんは感染症法による五類全数把握対象疾患に分類されています。診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出ることが定められています。**

\* 東京都感染症情報センターの「風しんの発生状況」のページもご参照ください。

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/rubella/>

